

阿蘇は、熊本の宝であり、どんな開発をも受け入れうる巨大な器だ。

それだけに、阿蘇の自然にふさわしい、雄大な計画をこそ。

観光開発は熊本開発の中で最も期待される部門である。観光開発の中心は阿蘇である。九州の観光を代表するものが阿蘇であることに異論はあるまい。その阿蘇の観光客動員力は九州横断道路の完成によって躍進することも間違いない。そこで期待する阿蘇観光開発の構想を述べてみることにした。

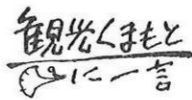
周囲八十餘の外輪山、その外側に広がる大草原、この雄大な阿蘇の景観は、それにふさわしい雄大な規模で開発しなければ、その真価値が出てこない。阿蘇は又その大自然の姿、美しさを、そのまま活かした開発でなければならぬ。

観光開発の名によって阿蘇の大自然を傷つけてはならぬ、日本の観光地が次第に俗化し心ある人々を悲しませていくが、折角俗世間を離れ、大自然にふれたくとも、その場所は段々なくなっていく、阿蘇の大自然美は日本のため、熊本が大事に守り、育てていかねばならないもの一つである。

阿蘇の大自然を損うことなく、しかも大規模開発するにはどうしたらよいか、二三の問題点にふれて見たい。

阿蘇の大草原地帯は、久住高原まで入ると大体十萬畝はあると思う。この広

漠たる大草原を馬に乗って走り廻った。考ただけでも壮大な気分が身内にわく。大草原で白日の下、兎狩りを青少年にやらせたらどうか、野鳥を増殖して



阿蘇観光開発の構想

平塚泰蔵

ハンター連をよるこぼせる大猟場をつくってはどうか。

青少年の有り余るエネルギーを阿蘇の大草原の真只中で思いきり爆発させることが出来れば、デラックスなホテルや温泉地で説教のあとには酒にすることよりも、青少年の非行防止にどれだけ役立つか明らかであろう。

こんな施設があまり金もかけずに、た

やすく出来るところは阿蘇以外にはないだろう。

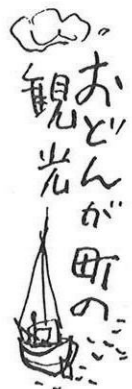
阿蘇観光は登山、火口見物だけでは物足りない。あの広大な外輪山も含めた地域に、大ピクニック用地、大キャンプ場を十ヶ所位設けたい。

その用地は何れも数百畝大のもので一時に、一万人位入れても、どこに人がいるかあまり目に立たない程度のものでなければならぬ。

尚ピクニック、キャンプ場の選定の場合、その中数ヶ所は舟遊びや釣りも楽しめるところが是非ほしい。阿蘇の地下水が極めて豊富であることは既に証明されているから、人造湖も容易に出来る筈だ。

次に、ホテル等の宿泊施設の開発についてどうしても考えねばならぬことがある。

現在の内牧、湯の谷、地獄、垂玉、栃の木、戸下等の温泉地の開発は勿論進めなければならぬ。一万人位の観光客は楽に収容出来る位の然も立派な宿泊施設を完備しなければならぬ。が、しかし、阿蘇の雄大な景観を楽しむためには阿蘇谷の低いところにだけにホテルを作つては駄目である。外輪山に立派なホテルを作る必要がある。大観峯から撮られた見事な写真を見れば多言を要しない筈だ。いいことは解っているが外輪山上には温泉も水もない、と反問されるかも知れないが、日本一の観光地に阿蘇を開発する積



「土地柄づくり」

ムードで...

△山鹿市▽

千年の歴史をもつ山鹿温泉のやわらかさ、美しさは山鹿灯籠とともに山鹿が誇る二つの伝統だが、これらを生かすことに山鹿観光の息吹きと発展の鍵がある。

国鉄幹線の電化、複線化とともに、一級国道三号線を利用する観光客は急激な増加を示している。黄金ルート九州横断道路に結ぶタテの線がアミ条をなさなければ、観光客への十分な態勢ともならず、タテのルート開発はある意味で菊池川流域温泉郷の使命だといえよう。

目まぐるしい進展を見せる交通網の中の点として、或いは地域開発の力強いにない手としていよいよ土地柄づくりがムードが高まってきている。

温泉と史蹟と 溪谷美と

△菊池市▽

菊池に温泉が湧出して今年で十周年。九州横断道路の開通により観光菊池は、

熊本のベッドタウンとして、北九州の離れ座敷として施設の充実を力を入れている。菊池、迫間の二大清流にはさまれた菊池盆地は、温泉と史蹟と菊池溪谷と公園、これらがうまくコントラストされるのが先決。

そのため菊池公園及び周辺一帯の広大な地域を都市公園区域として指定、建設省の指導のもと拡張を急いでいる。一方菊池農高の移転が決まり、その跡地利用が今後の問題で、公園を背景とした中央グラウンドと農商跡を結ぶ観光基地の形成が今から注目されている。

その他、菊池溪谷と大観峯を結ぶスカイラインの早急な実現など観光菊池の前途は今や大きく拓けようとしている。

都市計画で

温泉保養地

△玉名市▽

有明海工業地帯の背後地として、観光的に一段の発展が約束され、いまや市営温泉保養センターの建設も終え、又温泉道路の改良工事も進み観光客の受入態勢は整いつつある。一方、温泉街近くの高台一帯を都市計画の一環として、公園緑地化の話が盛り上っている。これが完成すれば温泉保養地としての理想郷が誕生するわけである。

りなら、温泉や水は下から揚げればよい。それ位の大計画でなければ雄大な阿蘇は生かされない。私が関係している開発会社では温泉を約八ヶ所の遠方から、しかも途中で千二百畝もある山を越えて引いてくる計画を進めている。(これは九州内ではあるが阿蘇ではない)これ位のことをやらなければ日本の阿蘇にはない。

以上の施設を立派な周遊道路で連絡す

観光は、点から線へ、線から円で結ばれつつあると云われてきたが、太陽とみどりのくに九州で知られている九州は、関西で最も親まれていた観光地として利用も年々上昇している。

関西と九州は、古くから産業、文化、経済において、密接なつながりをもっており、観光面では特に飛行機、汽車、船バスと種々の乗物も利用できるもので、極めて的になっていくようだ。

修学旅行について眺めてみても、近畿二府四県の五〇〇を越える高校の約八〇〇が北、南、S字のいずれかのコースで旅行しており、生徒からのアンケートをみて魅力のトップを「阿蘇」が占めている。当所に照会される件数からみても先づ「阿蘇」地区が圧倒的に多数を占め、天草、熊本と順次続いている。

ある大手旅行あつ旋業者の幹部の話によると、『九州は各県とも実に熱心に宣伝をしている。各県とも大阪に出先事務

京阪神

魅力のトップは阿蘇

ついでには自分でコース、旅館、時間帯、費用に到るまで詳細に計算してくるの

で、相談に応じる範囲が狭くなり、プランナーとしての性格が変わってきた。』ということを洩らしていたが、これは特に注目してよいのではなからうか。

しかし、関西の人に知られている様に思われるが、他面、杖立温泉が大分県と

然の姿をそのまま生かして、阿蘇にふさわしい雄大な計画で開発するべきである。

かくしてこそ阿蘇の真価が認められ日本一のすば抜けた大観光地として永久にその名が謳われるであろう。

(熊本振興KK社長)

誤認されているものもさること乍ら、阿蘇の大分県という質問をしばしばうける。大手旅行あつ旋業者のうち、九州方面の関係者を除くと殆んどが、三角—熊本—阿蘇のルートを周遊した程度で、最近の島ブーム、南九州ブームに関連して、天草—城南各地についての関心をもちた

ってきた。

ビジネス又は、観光で度々来訪する人の一致した印象としては、熊本には美人が多いこと、夜の観光コースで料金が低廉であるという二点について定評がある。

例年引率される高校の先生方の意見としては熊本城、水前寺以外に周遊する地点を求めると強い。資源に恵まれているが、開発が遅れているやに見られる。そして又、健全な青少年の若いエネルギーを発散させる様な施設を望んでいる。

(熊本県大阪事務所 高嶋主事)